

— H S K — なんれん —

おとふけ

No. 38

昭和48年1月13日第三回発行
H S K 318号
1998年9月10日
4月10日発行(1冊100円)
(送料は含まれていません)
発行 財団法人北海道福祉文化協会
発行 北海道福祉文化協会
北海道福祉文化協会 (H S K)



第6回 どんぐりまつり あんない

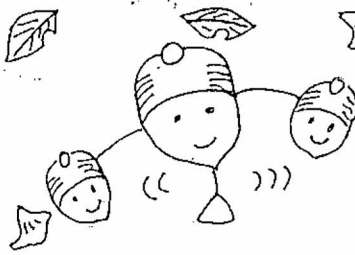
音更町福祉まつり あんない

書籍のあんない

福祉の店「どんぐり」とバザーコーナー

町保健婦さんとの懇談会感想

第25回全道集会 感想



第6回どんぐりまつりのご案内

主催 (財)北海道難病連音更支部
どんぐりまつり実行委員会

日時 9月27日(日)

9:30~11:00 パークゴルフ 緑南中学校

11:30~15:00 味覚ホール どんぐりの家前

参加費 一人500円(小学生以上)
飲物各自持参

味覚ホールの内容 ~ ジンギス汗、トリ串、サンマ、イカ地焼物、サケのチャンチャン焼、ヤキソバ、いなぎひご飯、デザート

◎カラオケ・抽選会あり

◎パークの道具あります

申し込み切 9月24日(木)

申し込みは同封ハガキ
か、TEL・FAXにて

まで

雨天時

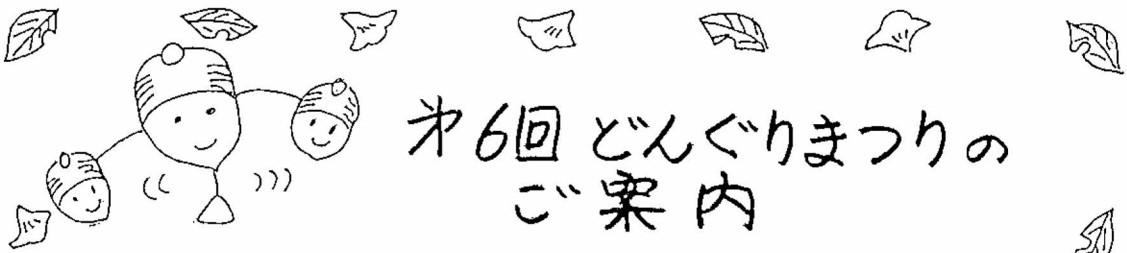
パークゴルフのみ

中止します

開始時間は

11:00~に

変更になります



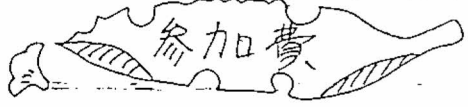
第6回 どんぐりまつりのご案内

主催 (財)北海道難病連音更支部
どんぐりまつり実行委員会

日時 9月27日(日)

9:30~11:00 パークゴルフ 緑南中学校

11:30~15:00 味覚ホール どんぐりの家前



一人500円(小学生以上)
飲物各自持参

味覚ホールの内容 ~ ジンギス汗、トリ串、サンマ、イカ他焼物、サケのチャンチャン焼、ヤキソバ、いなきひご飯、デザート

◎カラオケ・抽選会あり

◎パークの道具あります

申し込み切 9月24日(木)

申し込みは同封ハガキか、TEL・FAXにて
まで

雨天時

パークゴルフのみ
中止します

開始時間は
11:00~に
変更になります

平成10年度音更町社会福祉大会ご案内

日時 9月13日(日) 10:00~15:00
会場 総合福祉センター

1. 開会式 10:00~10:30
2. 福祉体験教室 10:00~12:15
3. 映画「地球が動いた日」10:30~11:50
阪神・淡路大震災のなかから、明日を見つめて
成長する子どもたちの感動の物語
4. よさこいソーラン他 12:30~13:00
5. 社会を明るくする運動作文コンテスト
表彰式及び発表会 13:00~13:30
6. 講演 ハロ-ブラザース(栗山町ハロ-学園)
13:30~14:30
7. お楽しみ抽選会 14:30~15:00
8. 閉会式 15:00
9. 各施設、ボランティア等の展示コーナー 10:30~15:00
10. 昼食バザール 一食200円 11:00~13:30
うどん、そば、ラーメン、おにぎり、おしるこ
11. その他催し物 ヨ-ヨ-釣り、わたあめ

難病連音更支部ではリサイクルバザールと国会請願署名カンパ行動を行います。ご協力をお願いします

書籍購入しました

題名 「北にはばたく」
北海道薬害エイズ訴訟関係の記録
編集 北海道HIV訴訟原告団
北海道HIV訴訟弁護団
北海道HIV訴訟を支援する会

さいせんの言葉 …… 櫻井よしこ

どんな時代にも、政府は情報を隠そうとしてきた。

情報が隠され真実が隠されている時、最も大きな被害を蒙るのは国民である。

薬害エイズ問題は、厚生省による二重三重の情報隠しと医師による患者軽視の医療によって、生じた悲劇である。

和解以降も厚生省の基本的体質は変わっていない。

だからこそ、患者も家族も周りの人も皆、勇気を出して社会に訴え続けていこう。偏見をなくし、国の施策を変えていくために。

支部では希望の方に貸し出します。連絡下さい。

福祉の店「どんぐり」とリサイクルバザーに関するコーナー

事前に会員の皆様に通矢口しましたが7月より店当番をしていただく方には、今までの昼食に加えて交通費が支払えるようになりました。(財政の許す範囲で)

現在の所 会員5人、家族3人、ボランティア4人で、体調や都合に合わせて当番をしています。店は行事がある時は休んだりしますが毎週土・日 10:00~14:00まで開店しています。ご協力いただける方いましたらご連絡下さい

・毎週水曜日 10:00~ どんぐりの家にてバザー品の仕分け作業をしています。
(連絡先 31-8723まで)

・町特産センターにて10月までオ2、オ4日曜日 8:00~ 青空朝市に出店

・ハタクフェスティバル出店 16420円

・連合夏まつり出店 24510円

・生協まつり 出店 21950円

これらのバザー出店に際しましては、ボランティアサークル「どんぐりのせいくらべ」の皆様にご協力をいただいています。

町保健婦さんとの懇談会 開催される

7月5日(日) 13:00~15:00 保健センターにて町保健婦さん3人と難病患者・家族との懇談会を開催しました。

保健婦さんは宮川妙子主幹、猪俣律子成人保健係長、春木みどり在宅支援係長の3人で、難病患者・家族は10人参加しました。

りうそ友の会 中村

保健婦さんと難病患者・家族との初めての懇談会は双方にとり実りのあった会と想った。

保健婦さん活動の中で特定疾患の方の家庭訪問が13名、延べ36件とは、ずいぶん少ない数に驚き……

私達患者会としても、保健婦さんへ会のパンフレット、しおり等を配布して啓蒙活動を行っていかなくてはと考えた。

例…私達りうそ友の会としても、年に5回発行される機関紙「流」その他諸々のパンフレットを保健婦さんに見ていただき、これからの患者への指導(リハビリ、基礎療法)に参考にして、理解をしていただきたい。

才5回難病患者・障害者と家族の全道集会
8月1日2日/泊2日登別市にて開催され
音更支部から15名参加しました。
ボランティアとして参加した帯広高等看護学
院保健学科生 5人の感想文です。

本多可奈

今回 難病連の全道大会にボランティアとして
参加させていただき、大変多くのことを学ば
せていただきました。私は、今年の3月まで札幌
の看護学校に通っていましたが、その頃は難病
連についてほとんど何も知りませんでした。知っ
いたことといえば、訪問看護ステーションでの実習
中に難病連のポスターを見掛け、難病の患者連
達の患者会があり、同じ疾患をもつ者同士で
そのつらさを分かち合うことができる機会が
あるということだけでした。

その時感じたことは、難病と呼ばれる疾患
が想像した以上に多く驚いたこと。また、将来
難病にかかった時の何らかの支えとなるので
はないかと思い、このような大会があるとい
うことを心に留めておこうと思いました。

今回の全道大会の参加以前に、お花見会にも

ボランティアとして参加させていただきましたが、全道大会のスケールの大きさには驚きました。

いろいろな障害をかかえた方々が、これだけたくさん集まり交流するということは、多くの準備や苦勞があるのだろうと感じました。

患者さんの中には杖をついている方や車椅子の方も多く、又車椅子も様々で日常生活動作の段階も様々でした。特に日常生活動作に障害のある方々が外出するということは、今日の日本ではまだまだ大変なことが多いと思います。また、病気を持っているということは、こういった長旅に体調を合わせる大変さもあるということも学びました。

今回私は多発性硬化症部会に参加させていただきました。1日目のレセプションでは患者さんの生の声を聞かせてもらうことができ、発病から診断されるまでの経過や、病気を受容していく過程、どういった生活を送っているのかなど聞かせていただくことができ、これから保健婦になり地域で働いていく私にとって大変興味深く、勉強になりました。

2日目の勉強会は厚生年金病院の先生のお話でした。最後の自己紹介で、自分のことや家族について話す方々の姿を見て、自分がこれまでにとどってきた経過や、今のつらい状況を同じ

境遇の人達に聞いてもらうことで、お互いに共感し合ったり、これからどう病気を受容し生活しているか、その糸口を探したいという切実な思いが伝わってきました。

勉強会では、患者さん達が抱えている思いや問題を話す時間が短く残念でした。

こうして難病を持つ方や、難病連にかかわる方々に出会い、また難病連の活動に参加させていただき、貴重でこれからの自分に実となる体験をさせていただくことができました。

今回お世話になった難病連音更支部の方々をはじめ、多発性硬化症部会の方々やその他難病連に携わる方々にこのような体験をさせていただき、また大変よくしていただいたことを感謝致します。

森 邦子

私は、今回全道集会にボランティアとして参加する機会をいただきました。

難病については、今まで講義を受けたくらいで難病の方と接した事もなかったため、全くと言っていいほど無頓着でした。

そのため全道集会では、難病をもつ方の生の声を

聴いたり、実際に介助する場面を通して学びを得ようと思い、参加させていただきました。

一日目のレセプションでは、同じ疾患をもつ方々が顔 合せしながら食事できるようになっており、私の隣は家族会の方でした。

その方は、旦那さんの発病後、在宅で10年間介護したと話し始め、その間介護し続けられたのは、同じ介護者の方との家族会での交流だったそうです。

互いに励まし合ったり、相談し合ったり、それが自分を支えたと言います。

又、こうして全道集会に毎年参加することで同じ仲間に出会う楽しみがあると言い、こうした会を通して疾患をもつ方々はもちろんのこと、その家族の方々も交流がもて、互いに相互作用があるのだと感じました。

二日目の分科会では、交流会に参加しました。その中では、医療費に関する切実な討論がされました。同じ障害をもっている、医師によって障害の程度の診断基準が曖昧で診断が異なる事。

表面化した症状のみで判断されてしまう事などの訴えがあり、そのため身障者手帳を申請してもらえず経済的に厳しい。

又、医療費に関するシステムが複雑で、福祉機関の窓口へ聞きに行っても不親切な対応が多い事など、

困窮した問題がつきつきに出され、それに対して皆で話し合っていました。

この話し合いを通して私が感じたのは、平等な医療を受けられない現状がここにあるのだと思いました。

国は平等な医療の普及を掲げているけれども、実際には数々の問題が解決されないまま、そこで苦しんでいる疾患をもつ方々がいる。

その方々の声が届かないままでは、何も変わっていかないのではないかと思いました。

実際に暮らしている中での問題を解決するためには、もっと声を聴き、一緒に考えていくことが必要だと思いました。

又、全道集会には、多くのボランティアの方々の協力を必要とする場面が多々ありました。

どのボランティアの方も、ごく自然に手を差し伸べている姿を見て思いました。

こうした会では、介助する側も必要な時に手を差し伸べられるのに、普段の日常ではなぜ自然に介助を求めたり、手を差し伸べたりできないのだろうと考えました。

障害をもつ方達が集まる場が特別ではなくて、普段の日常から地域と一緒に暮らしているんだということを、皆がもう一度考えてみる必要があるのではない

かと思いました。

障害をもつ方のバリアフリーやノーマライゼーション推進が叫ばれているけれども、その言葉の意味をもう一度よく考える必要があるのだと感じました。

必要な時に、必要な手を求める事ができ、それに自然に手を差し伸べられる社会を望みます。

この会が、問題解決の燈火となる事にとどまらず、疾患や障害をもつ方達が住み良く暮らせる生活が保証される事を願います。

今回、全道集会に参加させていただいた事に感謝いたします。

HSK・なんれん おとふけ

編集人 (財)北海道残病連音更支部 殿内 さかえ
音更町 TEL・FAX-

昭和48年1月13日第3種郵便物認可

1998年9月10日発行 HSK 函巻318号

発行人 北海道身体障害者定期刊行物協会 細川 久美子
札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
